



いけんひろば
～国立公文書館の展示を見てみよう！～
報告資料

令和6年10月19日（対面開催）

2024年度こども若者★いけんぷらす

目次

1. 開催概要

2. 参加者の意見

- 公文書を見て気になったこと、感じたこと
- 国立公文書館について気になったこと、感じたこと
- 国立公文書館のデジタルアーカイブについて思うこと
- 国立公文書館が記録を守る理由
- 国立公文書館にあるとよい展示など
- 国立公文書館にあるとよいイベント・設備など
- 国立公文書館を知ってもらうための取組のアイデア

3. 参加者アンケート



1.開催概要

1. 開催概要

テーマ	国立公文書館の展示を見てみよう！
担当省庁	内閣府
参加対象者	ぷらすメンバーのうち、小学5年生～高校生世代
テーマ説明	<p>国立公文書館とは、国の大切な文書を保存している施設で、公文書の大切さを伝えるための展示を行っています。約6年後に国会議事堂の近くで、新館が開館する予定です。</p> <p>みなさんには、現在の国立公文書館の展示を見学いただき、さらに公文書の実物を見たり、触れたりした上で、新館の展示を考えるために①公文書について、分からないこと、もっと知りたいと思うこと、②国立公文書館について、分からないこと、もっと知りたいと思うこと、③新館でどのような展示があると良いかなど、意見を聴かせてください。</p> <p>博物館などの展示、国の歴史、公文書・昔の記録などに興味がある人はもちろん、公文書や国立公文書館を全く知らない人の参加も大歓迎です。</p>
開催日時	令和6年10月19日（土）14：00～16：30
開催場所	国立公文書館
参加人数・グループ数	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 1班・・・小学生5名 ➤ 2班・・・中学生5名 ➤ 3班・・・高校生世代5名

2.参加者の意見

2. 参加者の意見

公文書を見て気になったこと、感じたこと

面白かった

- 全部面白くて、退屈した部分はなかった。
- 「平成の書」をテレビで見たことがあった。展示で見て、実際には結構かすれているところがあってびっくりした。
- 企画展「龍 一日常にとけこむ神秘」の展示と解説がおもしろかった。
- 「平成の書」に関するエピソード解説がおもしろかった。
- レプリカではあったが、教科書で見ていたものが展示で見られて感動した。

触ってみたかった

- 巻物に触れることがあまりないので、触ってみたいし、巻物を巻いてみたい。展示室でガラス越しで見た公文書も、実際に触れたら面白い。
- 筆で書いたものや、展示で見たような絵を触ってみたい。

保存する量が気になった

- どれくらいの数の公文書を保存しているのか。
- 公文書は、毎年毎年増えていくので、保存場所が足りるのか心配になった。
- 毎年度公文書を受け入れるとのことだが、年度末に一気に受け入れるのか、それとも年度末以外に受け入れるのか。また、どれくらいの文書を受け入れるのかが気になった。



保存・修復のための作業が気になった

- もっと詳細に説明したバージョンの動画も作ってほしい。
- 公文書の修復のしかたが気になる。
- 文書の修復作業について、どこまで修復するか気になった。昔の文書は紙が破れているものもあると思うので、どうするのか。
- 消えたり、ちぎれたりしている文書をどういう作業工程や作業予定を組んで修復しているのか気になった。
- 修復をするためには資格が必要なのか。資格があるならどうしたら取得できるのかも知りたい。



紙質が気になった

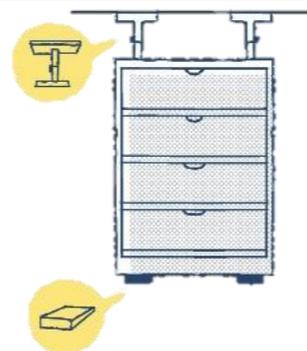
- 紙質が意外としっかりしているなと思った。もっと簡単に破れてしまうのかと思った。
- 紙質がバラバラだったので統一したいなと思った。



公文書を見て気になったこと、感じたこと

管理の方法が気になった

- 津波や災害があった時はどうしているのか。
- 文書の保存にいくらかかるのか。
- 保存している文書を汚してしまったらその資料をどうするのか。



その他

- 公文書を10年後に展示するか100年後に展示するかなど、展示をするタイミングの基準を知りたい。
- レプリカを作る過程を知りたい。
- 説明を聞いて、文書に人間味があると感じた。どういう役職の人が書いたのだろうと思った。文書を承認した人の署名はあるが、その文書を書いた人は誰かわからない。文書に書いてあることを決める人と、文書を書く人が別なのか気になった。



国立公文書館について気になったこと、感じたこと

立地が気になった

- なぜ現在の立地にしたのか。
- 現在の国立公文書館の所在地には元々何があったか。
- 新館を作ったら現在の国立公文書館はどうするのか。

他の国や他の団体などとの関わりが気になった

- 外国の公文書館など、国立公文書館の他にある公文書館とはどのような機会交流しているか。
- 国立公文書館はどのような企業と連携しているのか。

見づらい・わかりにくいことがあった

- 車いすを使っているのに、顔を上げないと展示が見えなかった。展示台がもう少し低いと良いと思った。見やすい展示もあったが、途中途中に見づらい展示があった。
- 解説してくれる人がいなかったら漢字ばかりで年齢が低いこどもは分からないと思う。
- 公文書館は大人向けと感じた。大人が多い。難しい内容が多い。

その他

- 国立公文書館をもともと知らなかったから、色々な人に知ってもらうために何をしているか知りたい。
- いけんひろばに参加するまで、国立公文書館を知らなかったのが課題だと思う。
- 国立ではない公文書館はあるのか。
- 企画展のテーマをどう決めているか気になる。

国立公文書館のデジタルアーカイブについて思うこと



- デジタルアーカイブがあることを初めて知った。
- 歴史資料が好きなので、デジタルアーカイブは気になる。
- デジタルアーカイブを使いたい。歴史を調べるときに、インターネット検索だと正しい情報を探すのが難しいので、役立ちそう。歴史的なことがまとまっているから、わざわざ検索しなくても、そのサイトの中から見つけられる。
- デジタルアーカイブは信頼性が高い。また、離島に住む人など、国立公文書館に足を運べない人でも使うことができるのが魅力。
- 公文書は膨大な量があるので、どういうものをデジタル化しているのか知りたい。
- インターネットで資料を見るときに、意味などが書いてあると良い。



国立公文書館が記録を守る理由

- 同じ間違いを繰り返さないようにできる。
- 事実を伝えることができる。ただ、なぜ本物の公文書を保存しないといけないのかは分からなかった。レプリカを保存することでも、同じように事実を伝えられるのではないかと感じた。
- 研究のため。研究は経済のために必要だと思う。たとえば、戦国時代の武将について本を作って売ることができる。

国立公文書館にあるとよい展示など

わかりやすい・親しみやすい展示



【展示内容・方法の工夫】

(原本を展示する)

- レプリカよりも実物があった方がテンションが上がるし、親近感がわく。その時代のことを連想しやすい。

(公文書に触れる)

- 公文書の現物に触れるようにするのは良くないと思うので、今の紙と昔の和紙を並べて触れるようにして、実際の公文書の感触を紹介できると、本物の公文書に触れた感覚になると思う。

(学生の知識と紐づける)

- 昔の言葉で書いてある本物やレプリカの資料と、教科書に載っている現代語訳の文章とを見比べられると、書いてあることが伝わる。
- 学校で学ぶ人物を中心とした展示があると「この人が書いたものか」「あの人がやったものか」と身近に思えそう。展示と自分が持っている知識とがつながる。

(その他)

- 展示物に角度をつけて見やすくしてほしい。棚の高さを少し下げてこどもでも見やすくしてほしい。

今までで印象的だった展示

- 体験型の展示。目の錯覚に関する展示では、進むと展示がくるくる回って見えるような体験があった。見ていて楽しい展示だった。
- 推しの展示会に行った。進むと何かが出てくるような仕掛けがあった。何が出るかなというわくわく感があった。
- 哺乳類展は動物の剥製が並んでいて迫力がすごかった。動物が近くにいるように感じた。立体物が並んでいると良いかもしれない。

【展示に関する説明の工夫】

(こどもにもわかりやすい説明)

- こどもに読めない文字には、漢字にふりがなをふってほしい。
- もう少しやさしい言葉を使ったり、やさしい版を作っていたりしたら年齢の低いこどもでもわかりやすいと思う。
- 展示品に「これは何年前のものです」と書いてほしい。
- 文書の読み方を少し隠しておいてクイズにすると良い。紙をめくると答えが見えるものをイメージ。

(動画を使った説明)

- キャラクターが登場する解説動画があると良いと思う。ショート動画のように短かったり、アニメーションでまとめたものが良い。
- 企画展は専門的で知識がないとわかりにくかったので、最初に資料全体について解説した導入用の動画などがあると展示を見たときに感動が伝わる。

(音声を使った説明)

- イヤホンガイドがあるといい。公文書に関する裏話や面白い話を入れておくともっと楽しめそう。人気声優がイヤホンガイドでナレーションをするのもいいかもしれない。

(スマートフォンを使った説明)

- スマホで二次元バーコードを読み取ると説明が表示されるのもよさそう。



国立公文書館にあるとよいイベント・設備など

こども向けのイベントやスペース

- 公文書に関する体験ができるといい。例えばスタンプラリー、謎解きといったこども向けイベントなど。
- 例えば「マンガ歴史展」などこどもに親しみやすい歴史展を開けばよいのではないか。
- 大人が展示を見ているときにこどもが遊んだりして、過ごせるスペースをつくるといい。
- 気軽に行けるよう、多目的スペースをつくってほしい。

公文書に関する体験

- 何かが体験できる。
- 自分で「令和」の紙を見せるのをやってみたい。
- 「令和」の書をもって自分も同じポーズができるフォトスポットのような展示があると良い。
- 公文書の修復とあわせて、修復道具も見られたらいい。
- 公文書の修復専用の道具、たとえば糸や刷毛をふだん使っているものと比べられたら面白い。体験教室的なものがあったら面白い。
- 公文書を複製する作業をやってみたい。

国立公文書館ならではの企画

- 公文書館の職員は古い資料の専門家だと思うので、無くなってしまつて惜しいと思う文書にどういうものがあると思うか気になる。「こういう文書が残っていたら良かった」という思いや「今は無いけれど、昔はあった」ということを伝えられるシリーズの展示があれば面白い。
- 「職員一押しの公文書」も見てみたい。

展示スペースの拡張

- 展示スペースを広げたほうが良いのではないかと感じた。「もう終わりか」と思った。
- 保管庫みたいな環境も見せる。
- 公文書を受け入れた後の「くん蒸」という過程について、学生が来たときに見学もできると、より公文書の保存を身近に感じてもらえると思った。
- 修復について学んだり、修復作業や保存作業が見られる場所があったりしたら、公文書に興味を持てると思う。

おみやげなどの販売

- レプリカを展示・販売してほしい。
- おみやげショップは拡充してほしい。

その他

- バリアフリーになっているといい。
- 新しい国立公文書館では学生にも公文書を見てほしいとのことだったので、国立公文書館に初めて来た人向けにどういうところなのか説明があるといい。
- 館内の階段が寂しかったので、階段に公文書の写真を貼る。



国立公文書館を知ってもらうための取組のアイデア

入りやすくするための工夫

- 入って良い場所という雰囲気がない。入ってOKで展示があるという雰囲気を出さないと入れない。国立なので入れないと思っていた。
- 見学できるということをアピールする。「入っていいです」ということが伝わり、入りにくいことの壁さえ乗り越えられれば皆の博物館的な存在になるのでは。
- 国立の博物館・美術館と協力して、国立公文書館と国立の博物館・美術館を全部つなぐスタンプラリーを開催し、コンプリートした人に賞品があるようにすれば国立公文書館にも人が来てくれる。
- 国立公文書館と大手企業のコラボ。

広く知ってもらうための工夫

(国立公文書館以外の場所で、紹介してもらう)

- ちらしを学校で配ったら良い。
- 教科書で紹介して、まずは公文書について知ってもらう。

(展示内容を工夫する)

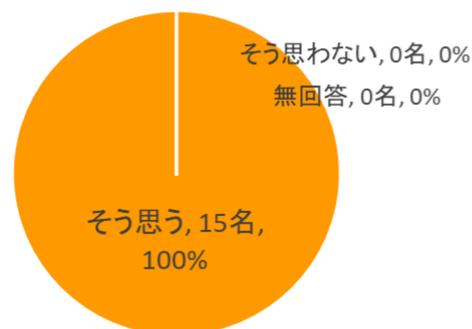
- みんなに覚えてもらうためのイベントを開催するのが良いのではないかな。
- 公文書館の干支の企画展をちらしで紹介したら「来年の干支はこれか。行ってみよう」となるかもしれない。あと、次の年の干支の置物があったら良いと思う。
- 面白い特別展示があったら見に行き、ついでに常設展示も見ることになると思うので、特別展示を充実すると良い。
- 龍の企画展のような、公文書とあまり結びつかないテーマだと、興味を持つ人がいるかもしれない。
- 国立公文書館を起点に興味をもつのは割と難しいと思う。興味があるものをきっかけに来るのが一番良いと思う。たとえば、「明治維新」のような歴史に関するテーマのほうが興味を引くと思う。対象を絞った方が良いかもしれない。



3. 参加者アンケート

3. 参加者アンケート ※一部を抜粋して掲載

「いけんひろば」に参加してよかったですか？



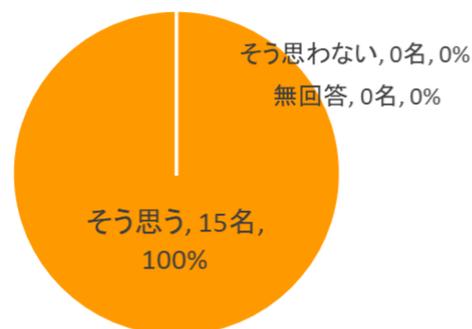
「そう思う」の理由(自由回答)

初めて公文書館に来ることが出来ましたし、直接触れることも出来て充実していた。発言も安心してできた。

歴史の授業で習ったことのあるものばかりだったのでワクワクしながら意見交換ができたから。

公文書館は、もっとお堅いかと思っていましたが、面白い展示の話もきけたから。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかしかった理由(自由回答)

(回答なし)

そのほか、今日の「いけんひろば」についての感想を教えてください。

意見を言うときに言葉が詰まってしまっても優しく見守ってもらえて話しやすかった。

体験型で、自分の思うことを受けとめてもらえて楽しかったです。

初めて参加したけれど、とても楽しかったです。また参加したいです。